



環境省

# マテリアルフローの精査に関するワーキンググループ に関する報告

環境省

令和8年1月



# WGにおける議論内容といただいたご指摘

- ・WGでは、マテリアルフローの更新の考え方および今後の調査方針、マテリアルフローを活用したKPIの評価に関する検討・議論を実施した。いただいたご指摘を踏まえ、今後の調査方針に反映させていただく予定。

## 開催概要

- 日時 : 令和7年11月26日（水）13:00～15:00（※オンライン、非公開で実施）
- 出席委員 : 田崎智宏 座長、天沢逸里 委員、中谷隼 委員、矢野順也 委員
- 議事 : （１）マテリアルフローの現状に関する課題等の検討  
（２）マテリアルフローの精査に向けたアンケート調査の実施について

論点	いただいた主なご指摘（※一部抜粋、要点のみ記載）	対応方針（案）
マテリアルフローの 今後の更新の考え方	✓ 調査項目が増えると毎年の調査が大変になり、費用もかかる。負荷と費用を踏まえ政策効果に資する重要箇所絞ることが重要。	政策効果に資するかどうかの観点で、対応の優先順位を検討する。
	✓ 繊維to繊維5万tの受け皿の有無を確認するため、糸・織物など上流の国内外サプライチェーンの構造と需要量を把握する必要がある。	経済産業省生活製品課と連携の上、今後の調査方針を検討する。
	✓ 製造工程におけるリサイクル素材の受入れポイントを特定し、国内生産能力と通常原料投入量を把握し、比較評価することが重要である。	
	✓ 回収由来別の衣類の素材（天然繊維・化学繊維）の調査は、ある程度定期的の実施していくことが望ましい（ただし、ばらつきが大きいデータのため、注意が必要）。 ✓ あわせて、ウエス等へのリサイクルの割合も把握しておくことが必要である。	次年度以降の継続した故繊維事業者に対する調査（アンケート調査や現地調査）の実施を検討する。
マテリアルフローを 活用したKPIの評価 について	✓ アクションプランにおける施策の導入目標量について、直接効果・間接効果の関係性を数式で明確に示し、分かりやすく説明いただく必要がある。	施策の目標量の考え方について整理したスライドを資料4に掲載。
	✓ リデュースの進展による効果は、マテリアルフロー上の特定のフロー等から明確に確認する（傍証を設定する）ことは困難。複数の方法で確認し、幅に収まっていることを確認する形が考えられる。 ✓ 生活者による稼働率向上・寿命延長のファクターは非常に複雑で、アクションプランにおいて具体的な施策を特定し、優先順位を決定することは困難である。	リデュースの進展による効果は複数の方法による確認を検討する。 アクションプランにおけるリデュースの取扱いは、リユース・リサイクルの推計値を踏まえ、リデュースで達成すべき量を逆算する考え方とする。
	✓ 海外リユースに出た衣類が実際にリユースされずに廃棄される割合について、補足的な調査の実施が望ましい。	次年度以降の調査方針の参考とさせていただく。
マテリアルフローによる 繊維to繊維リサイクル の状況把握	✓ （反毛の衣料品への利活用割合が測定できていない点について）リサイクルを行う個社へのヒアリングで販売状況を把握し、次段で織物製造業者へ調査する等、予備調査からステップ・バイ・ステップで全体像を模索していく方針が良いだろう。	経済産業省生活製品課と連携の上、今後の調査方針を検討する。

# マテリアルフローの精査に向けたアンケート調査の実施について

- ・マテリアルフローにおける販売等のフローの精査を目的とし、アパレル事業者を対象としたアンケート調査を実施。
- ・また、排出等のフローの作成に活用する目的とする生活者アンケートは継続して実施し、故繊維事業者を対象としたアンケート調査を次年度に実施予定である。

## アパレル事業者を対象としたアンケート調査の概要

### <調査対象>

- 一般社団法人日本アパレル・ファッション産業協会（JAFIC）および一般社団法人ジャパンサステナブルファッションアライアンス（JSFA）に所属する企業（アパレルメーカー、小売業、卸・商社）の担当者
  - ✓ 一般社団法人日本アパレル・ファッション産業協会（正会員：128社、賛助会員：131社）
  - ✓ 一般社団法人ジャパンサステナブルファッションアライアンス（正会員：18社、賛助会員：51社）

### <調査方法>

- 調査票の電子ファイル、またはオンラインフォームによる回答

### <調査スケジュール>

- 実査：2025年12月中旬～2026年1月下旬
- データクリーニング・分析：2026年1月下旬～2月下旬（※第3回検討会で調査結果を報告予定）

### <調査内容（一部抜粋）>

- 2024年度における当期仕入・期首在庫の量
- 当期仕入・期首在庫の消化率
- 消化できなかった製品への対応方法
- 在庫処分業者への売却後のリセールや再資源化等の状況
- 消化できなかった製品の在庫保有年数
- 環境に配慮した原料・素材の割合                      他

# アンケート調査を踏まえたマテリアルフローの更新箇所

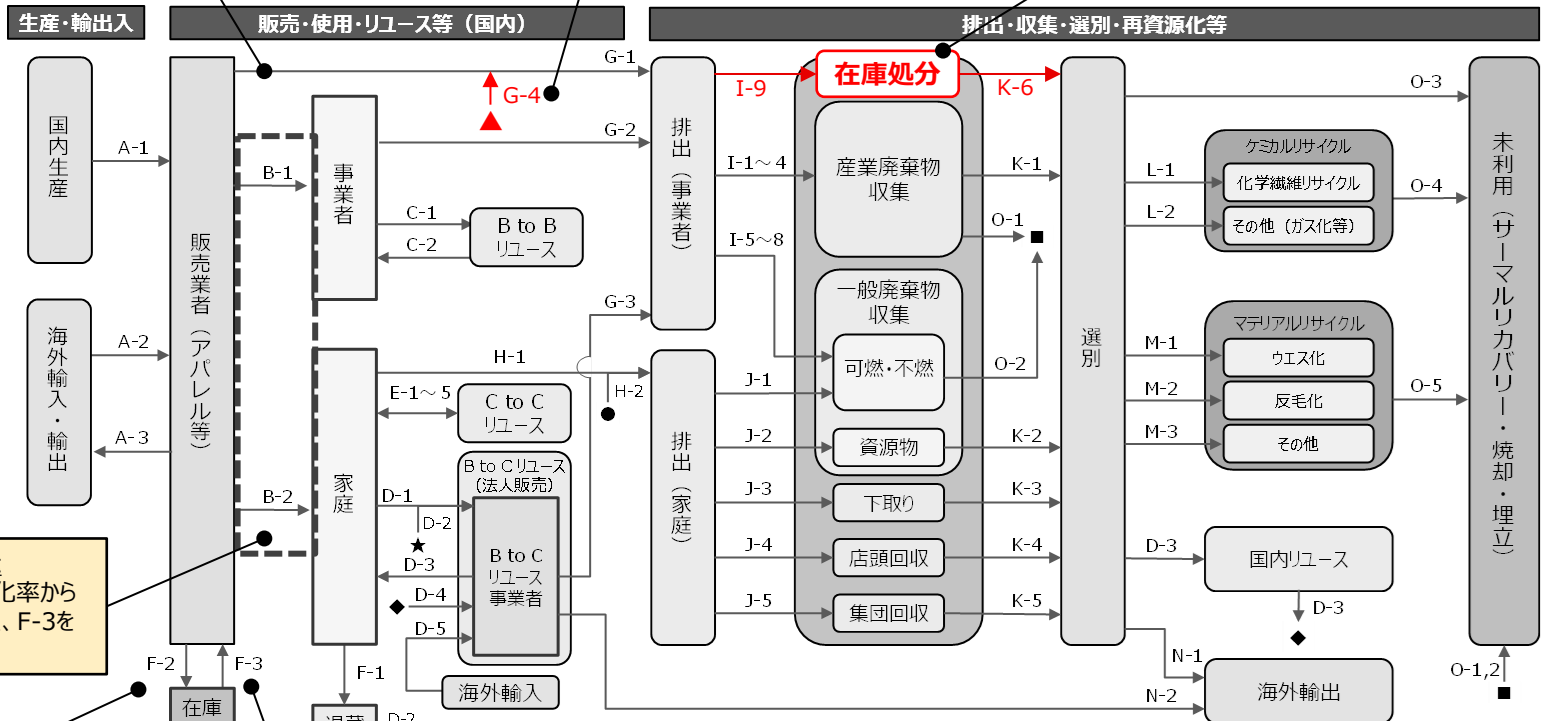
・アンケート調査の分析結果を踏まえ、マテリアルフローの下図の箇所について、2025年度版における更新を検討する。

## アンケート調査を踏まえたマテリアルフローの更新箇所

■ G-1 : 販売業者（アパレル等）から排出される量（当期仕入分）  
廃棄量に加え、在庫処分業者への引き渡し等も計上。

■ I-9、K-6 : 在庫処分業者への引き渡し後の再資源化・廃棄等  
在庫処分業者への売却後のリセールや再資源化等の状況を反映。

■ G-4 : 販売業者（アパレル等）から排出される量（期首在庫分）  
期首在庫から廃棄や在庫処分業者への引き渡し等に回るフローを追加。



■ B-1+B-2 : 販売量  
当期仕入分に限った消化率から  
新規販売量を推計の上、F-3を  
加える

■ F-2 : 当期仕入から在庫に回る量  
当期仕入分に限った「来シーズンもう  
一度販売する割合」を国内新規供給量  
に乘じる。

■ F-3 : 期首在庫から消化された量  
期首在庫のストック量をアンケートから推計し、期首在庫  
分に限った消化率を乗じる（来シーズン販売するものは  
在庫に残る）。